

# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭則

## 第六回 中山道ウォーキング 本庄宿

三月十七日、前日(卒業式)の天気予報では大雨とのことだったが、朝には雨も上がり、本庄駅に着いた頃には、少々暑い陽気となっていた。10時半の駅前には、8名が集合。まずは中山道に向かい、本庄城址公園へ。八坂神社、稲荷神社を観る。此処には県指定のケヤキの大木が、市役所を横に見て、円心寺の山門へ。柱の朱色が色落ちして、床石が赤茶けているのが何とも残念。中山道に戻り、現在も使われている旧本庄郵便局(国登録文化財)と裏にある諸井家住宅へ。諸井家は、秩父セメント創始者、西武鉄道創始者を出した本庄の、旧家との事。

次に向かったのは、今は歴史民俗資料館になっている旧本庄警察へ。入り口に有る田村本陣の門を観て中庭へ。此処で昼食休憩。あまり広くない資料館ですが、埴輪や土器、明治以降の街の写真など、うまくまとまっている展示でした。二階のバルコニーも降りる事が出来ました。此処から東に向かい、小山川に架かる寺坂橋、賀美橋



本庄市立歴史民俗資料館

(ともに国登録文化財)を観て中山道に戻り、今は、ローヤル洋菓子店になっている旧本庄商業銀行の煉瓦建物の中でコーヒータム。本庄祭りの山車の出発地となる、金鑽神社、神楽殿などを観て、更に中山道を進む。浅間山古墳を観て神保原駅へ。今回のウォーキングで、学園在学中の予定は、無事終了しました。参加して下さった方々、HPを見て下さった方々ありがとうございました。4月からまた、新たに始まります。よろしくお祈いします。

## 第一回夢クラブ研修会

新たに設立された「俳句ゆめクラブ」の初研修会は、3月23日に15名が参加して、和気あいあいのうちに開催されました。

講師役の梅田さんは「みなさん、これから熱心に取り組む雰囲気を感じて、とても期待しています」と新人たちの成長を楽しみにしています。



級友の俳句楽しむ弥生かな

**ホームページ委員「伊奈いきがいネット  
クラブ編集委員会」(3月18日開催)**

出席者 岡村昭則

このタイトルの会議について、みなさんには直接に開りのないことですが、専科各コースから選ばれたホームページ委員にとっては、専科ホームページを作成する上で、必ず出席せざるを得ない会議です。卒業後も専科ホームページに携わる私は初めて参加しました。

会議で「伊奈ネットクラブ各URL管理担当一覧表」や「22年度年間事業展開計画表」等が配布され、それに基づいて先輩達の説明があり、会議が進められました。私達は初めての参加なので、そこで使われている言葉などわからないことばかりなので、基本的なことから逐一質問をしていきました。

**Q**：ホームページ委員と「伊奈ネットクラブ」との関係について説明してほしい。

**A**：20年度までは「いきがい大学伊奈学園ホームページ」のサーバー(インターネットに接続されている大型コンピュータ・卒業生個人所有)運営については学園主体で行ってきたが、21年度からはNPO法人を立上げ、そのサーバー運営を学園から引継ぎ自主運営することになった。従って「伊奈ネットクラブ」の運営に携わる人は、従来どおりホームページであるが、会員を各期正・副委員長と限定している。

**Q**：ホームページ委員は学園から委嘱状をもらって、在学中も卒業後も学園ホームページ作成に携わっているのだから、「伊奈ネットクラブ」の会員を限定するのはおかしいのでは？

**「この質問で会議はいろいろな意見が噴出しもめました。」**

.....  
NPO法人の場合は、規約・活動計画・予算・決算・役員配置・総会等を行うことが義務付けられているので、労働組合上部団体大会へ所属労働組合が代議員を選出して参加させる形がよいのではと云う方向性を出して、「伊奈ネットクラブ」で検討してもらおうことになりました。

**専科の要望**：専科は2年制課程とは違って、1年で独立してホームページを引継ぎ作成しなければならぬことや、卒業後の活動面でも難しい状況にあることをご理解いただきたい。

**専科ホームページ委員会  
(4月2日開催)**

出席者 田中 忠・岡村 昭則

伊奈学園に入学し、自治会を立上げるとホームページを開設することが義務付けられています。そのためにホームページ委員には学園が委嘱状を交付しています。**一度ホームページに携わってしまつと校友会を解散しない限り、継続するというのにはちょっと気が重くなります。**名譽な専科一期生として専科校友会ホームページの礎は作らね

ばど、とにかく頑張ることにして先輩が立上げてくれたホームページを自分達の手で運営していくために、定期的(月一回)に専科ホームページ委員会を開催して一歩一歩前進することにしました。

今日の検討課題は、専科卒業生に見てもらうにはどんなスタイルのホームページにするかについて、全体的視点から話し合い、左記を確認しました。

ボタンを八個とすること(・**22年度活動計画**

・**各コース活動**・**各クラブ活動**・**ミニ広報紙**・**みんなの広場**・**会則&役員**・**アーカイブ**等)

ホームページも簡単に仕上げること

情報収集は校友会役員で取材担当を決めること  
クラブ活動紹介は、会員が参加した先輩達のクラブと、専科立上げで参加を限定しないクラブと  
すこと

各コースのクラブで参加を限定する「俳句クラブ」、「手話ダンス」等は班活動で紹介すること

専科ゴルフ部は入会希望者への連絡先のみ掲載して案内すること



**専科第1期校友会第一回理事会開催!**  
(4月9日)

出席者 田中、北氏、大阿久、相場、吉野、梅田  
小林、安藤、天谷、岡村の10名の理事  
まずは、田中校友会会長の初挨拶。次に議題に  
従い六項目について順番に議事進行となった。

議題1 伊奈連協報告事項

- (1) 5月13日 伊奈連協総会 専科はここから正式加入する
- (2) 本年度の行事予定が発表される予定

議題2 第1回交流会の検討

- (1) 8月頃に開催する予定でクラス理事が原案を作成する
- (2) 専科クラス理事の打合せ 5月14日午前10時から 201号室
- (3) 6月11日理事会に提案し、内容まで決定する

議題3 ミニ広報誌の発行

- (1) 専科ホームページが立ち上がるまでに2~3ヶ月かかるので、ミニ広報誌を発行し連絡網でお知らせする
- (2) 当面は行事予定を中心にクラブ活動などを掲載する

議題4 伊奈学園への提案事項の検討(感想、要望など)

4月22日 伊奈学園委員会があるので専科の意見をまとめる(以下 主な意見)

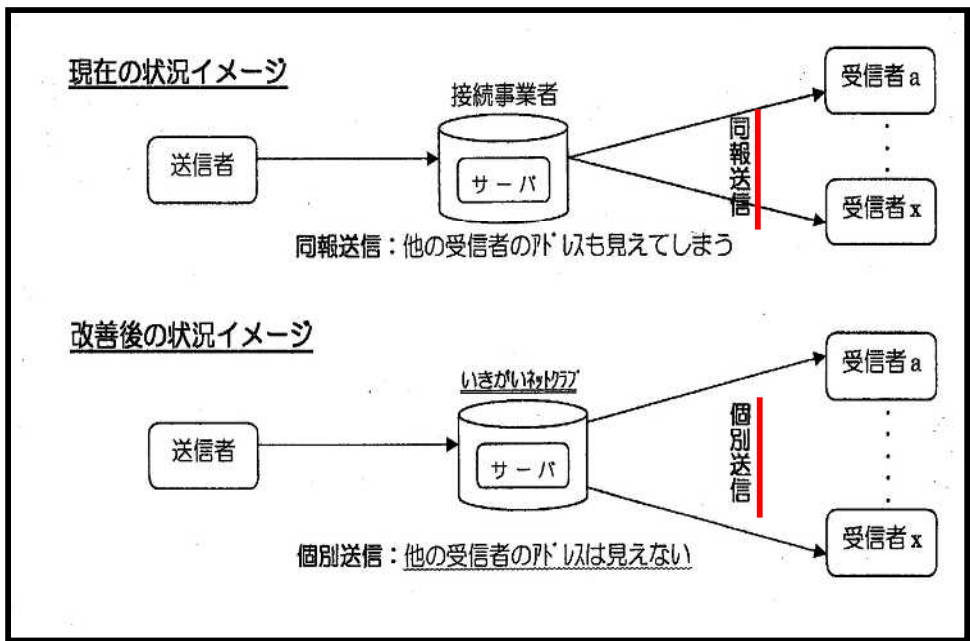
- ・ コース別の特徴ある授業が少ない
- ・ 専科というには授業内容が物足りない
- ・ 時間毎のアンケートでは意見が表現できない
- ・ 先生と学生、学生同士の意見交換の時間が全くなかった
- ・ 合同授業が多すぎる、朝礼時の配布用紙は無駄
- ・ 自治会、クラス班編成などは自主運営だとの確な運営ができないなど

**専科校友会会員メールは、いきがいネットクラブサーバー経由で個別送信に切り替えます**

専科校友会は会員への情報伝達手段としてメール配信をメインに行います。中には「迷惑メール」などで悩まされている方も多くいると思います。

- 議題5 その他
- (1) クラブ活動補助金 2,000円支給
  - (2) 専科自治会の余剰金が12,519円入金された
  - (3) 健康コースから寄付2,702円入金された

で、メールの宛先に含まれるグループの方のアドレスを盗みとられる危険性を防止するために、伊奈学園関係のNPO法人いきがいネットクラブのサーバー経由で個別送信に切り替えます。各専科コース別に伊奈ネットクラブに登録しますので、年間2000円費用がかかります。理事会で検討してもらったところ加入OKとなりました。



## 第七回 ウォーキングサークル 幸手宿

四月六日(火)は、お天気にも恵まれて桜日和となりました。22名と大勢の方が参加され、日光街道「幸手宿の史跡」めぐりと権現堂の桜を楽しみました。ここで少し「幸手宿」と「権現堂の桜」の歴史を紐解いて見ましよう。

### 「幸手宿」

大和朝廷時代になると幸手を含めた関東にもその影響が及び、日本武尊が東征に際して「薩手が島」に上陸、田宮の雷電神社に農業神を祭ったという言い伝えが残っています。

奈良・平安時代になると、平将門伝説が木立、神明内、平須賀などに残されており、中央との交通も開けてきたと考えられています。

鎌倉時代から戦国時代にかけて奥州路の拠点、高野の渡を擁し、鎌倉街道が通っていた幸手は軍事・交易上でも交通の要衝として栄え、源頼朝、義経、静御前、西行法師等が足跡を残しています。

室町時代以降、この地は古河公方の家臣、一色氏の領地となり、現在の幸手駅周辺に陣屋が築かれていたと思われます。

幸手の名称に関しては、慶長4年(1599)、当地にあてた手紙に「幸手領幸手町」とあり、約400年前には一般的に使われるようになったと考えられています。

江戸時代になると幸手は交通の要地として今に続く繁栄の礎を築くこととなります。まず、五街

道のひとつ日光道中と徳川將軍家が日光参詣に使った御成道が合流し、さらに筑波道が分岐する宿場町として栄えました。そして街道が整備され参勤交代や交易の往来が盛んになるにつれて、現在の市街地につながる基礎が形作られてきました。

またこの時代、治水に通じていた伊奈氏の手で利根川の付け替え工事が行われ、権現堂川、江戸川を中心とした舟運が隆盛を迎え、新田開発の進展ももたせて、権現堂河岸、関宿向河岸は回船問屋が立ち並び繁栄を示すこととなります。

明治になると、22年に町制がしかれ、その後何度かの合併、編入、分離を経て、昭和31年に幸手町が誕生。昭和61年には市制を施行、現在の幸手市となっています。

### 「権現堂の桜」

江戸時代天正年間に利根川の支流(現在は分流)である権現堂川の堤防として築かれたものと言われ、かつては6キロにわたり約300本の桜があり、大正時代から桜の名所として賑わっていました。また、明治9年に明治天皇が東北巡幸の際に立寄ったことから、(行幸)堤とも呼ばれるようになりました。

大正9年に桜を植え替える運動は既に始まり、利根川や江戸川の流路変更に伴い、権現堂川は明治時代の終わりに締め切られ、昭和8年に廃川となる。そのため、堤防は荒れ果て、堤防の桜は終戦前後の混乱や燃料にするために、その多くが伐採されました。昭和24年、旧権現堂川堤防のう

ち中川の堤防として残った部分へ改めてソメイヨシノを植樹したものが現在の権現堂堤です。昭和63年には周辺の休耕田にアブラナが、平成8年には堤の一部にアジサイが植えられました。平成20年、権現堂調節池(行幸湖)と合わせ、埼玉県営権現堂公園として整備されました。



ウォーキングサークルは、クラブ活動としてではなく、サークル活動として他のコースの皆さんにも門戸を開いています。次回は5月18日越谷宿です。参加をお待ちしています！